

3. ユビキタスネットワーク～電子タグ技術等の展開～連携施策群

I 連携施策群の活動状況と成果

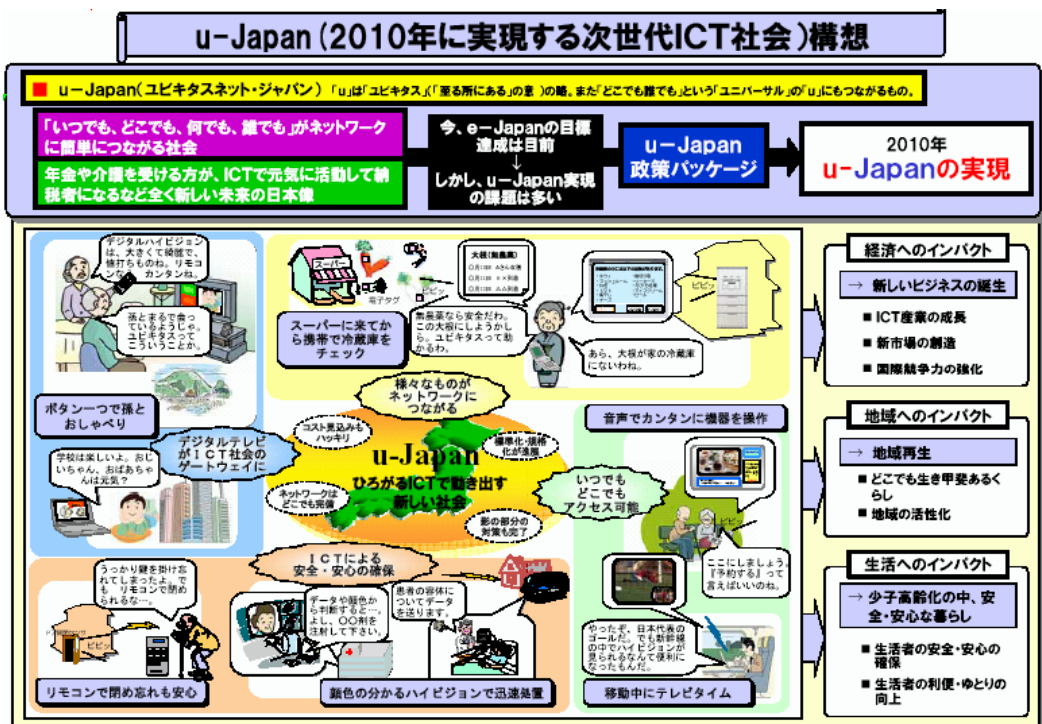
1. ユビキタスネットワーク～電子タグ技術等の展開～連携施策群の目標

<大目標>

「世界を魅了するユビキタスネット社会の実現」に向けた
ユビキタスネットワーク社会基盤（高度ユビキタスオープン統合基盤）の構築

ユビキタスネットワーク社会の将来イメージは、例えば下図例①、②のようなものである。

ユビキタスネットワーク社会の将来イメージ(例①)



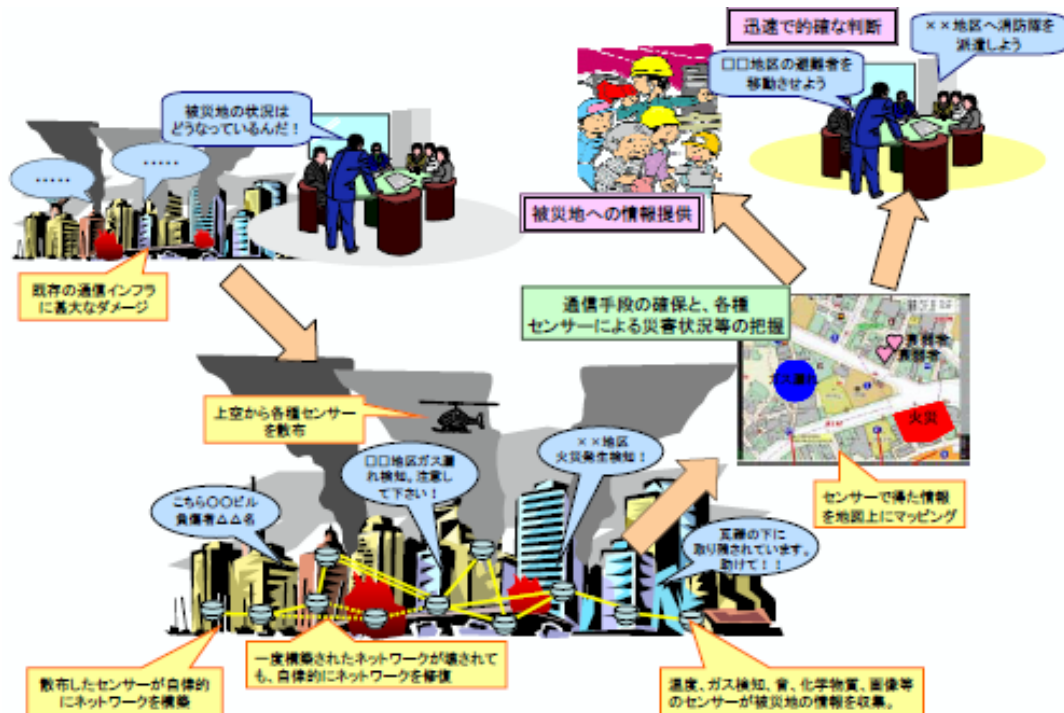
出所：麻生議員(総務大臣)、経済・地域活性化、安心・安全に向けた重点戦略、
経済財政諮問会議提出資料、2004年5月11日

図1 ユビキタスネットワーク社会の将来イメージ(例①)

ユビキタスネットワーク社会の将来イメージ(例②)

センサー（電子タグ）により、情報を収集・ネットワークを自律的に構築・

修復し、災害時の情報提供・迅速な対応が可能になる



出所：総務省 ユビキタスセンサーネットワーク技術に関する調査研究会報告書（平成16年7月）

図2 ユビキタスネットワーク社会の将来イメージ（例②）

<平成18年度の目標>

① 施策の要素技術の共有化・統合化

複数の省庁により実施されているユビキタスネットワークに関する施策について、それぞれの施策に関連する要素技術を抽出し、その要素技術が他の施策においても活用できるように関連づけ（モジュール化）、連携による相乗効果を図る。

② 未利用（医療）分野への展開

従来のユビキタスネットワーク関連の施策は、流通・交通等の分野で主に実施されてきたが、これまで未利用であった医療分野へ展開することにより、電子タグ等の更なる有効活用と普及を図る。

③ 斬新な利活用分野の発掘とイノベーション創出

これまでの電子タグの主な利活用領域であった流通などの分野とは全く異なる、斬新な利活用分野を探索することにより、電子タグ等の利便さを一層拡大させる。このため、情報通信分野の枠だけでなく、ライフサイエンス・環境・社会基盤といった分野での利活用を考慮にいたったソリューションドリブンな検討を行う。

＜背景／具体的方策＞

コンピュータをはじめとしてL S I 技術が急速に広がり、様々な分野で使われている。それが有機的、一体的に活用されるためには、ネットワークに結びつけるユビキタスネットワーク技術が重要であり、ユビキタスネットワーク社会において情報通信技術を各分野に活用してイノベーション創出することが今後非常に重要になってくる。

このイノベーション創出のためのコア技術であるユビキタスネットワーク技術を、情報通信分野のみならず、ライフサイエンス・社会基盤・環境・ものづくり等の分野への利活用の観点で広く捉え、その中からユビキタスインフラ／統合システム化技術の軸で集約させ、イノベーション創出につなげる検討を行う。

図3 ユビキタスネットワーク～電子タグ技術等の展開～連携施策群に関する研究の現状と補完的に実施する課題

